

RICOH
Visual Communication
お客様導入事例



発災現場の映像をRICOH Unified Communication Systemでリアルタイムに配信、
さらにRICOH Interactive Whiteboardで現場状況を記録して、東京本社とも情報共有。
リアルタイムに災害現場の状況を把握できる体制を構築されました。

太陽石油株式会社 様

- 導入機種：RICOH Interactive Whiteboard(RICOH IWB) D6510x3台/D8400x1台
RICOH Unified Communication System(RICOH UCS) 4契約
 - 導入拠点：東京本社、四国事業所、山口事業所
- Company Profile
- 主な業務内容：石油の輸出入業、精製業および販売業。
ベンゼン、キシレン等の石油化学系基礎製品の製造、加工および販売。石油、天然ガス等の炭化水素の探鉱、開発および採取
 - URL：http://.taiyooil.net



今、発災現場で何が起きているのか、
東京本社とリアルタイムに共有できる環境構
築が、数年来の課題となっていました。

太陽石油株式会社 四国事業所
環境安全部 保安グループ長
大森 好洋 様



太陽石油株式会社様は、防災活動における情報共有システムの改善において、RICOH UCSとIWBをご導入。もしもの災害発生に備え、発災現場からの映像配信と、ホワイトボードの遠隔共有機能を使って刻々と変化する現場の様子を、東京本社の災害対策本部がリアルタイムに把握できる環境を構築。同時に、事業所内の災害状況の共有方法も、大幅に改善されました。事業所で発災した時には、事業所の防災本部で現場状況の情報を集めて、東京本社の災害対策本部に報告する必要があります。これまでの情報伝達手段は、現場は防災無線、事業所と東京本社は電話とFAXが中心でしたが、防災力強化のため、より現場の様子が詳細に把握でき、東京本社とも正確に情報共有できるシステムを検討されていました。

導入の狙い

発災現場と東京本社の災害対策本部との情報共有について、電話とFAXを使った情報共有よりも、もっとリアルタイムな情報共有をしたい。

石油基地と工場を兼ね備えた事業所は、敷地が広大なため、他部門は発災現場からの様子がわからず、防災無線だけでは、正確な最新情報が伝わらなかった。

導入後の効果

現場である事業所（四国・山口）と災害対策本部（東京本社）の間で、臨場感のあるリアルタイムな情報共有が実現。災害対策本部（東京本社）で迅速な意思決定ができる環境が整った。

四国事業所内の各部門が、RICOH IWBに記載された時系列の状況変化情報を、自ら閲覧できるようになったことで、事業所内でも部門ごとに次の取るべきアクションを先回りして考え、行動できるようになった。

入手できる情報の量・鮮度が、飛躍的に向上し、逸早い自主的な行動が可能に。優れた操作性・効果を実感し、日常業務への本格展開も検討しています。



太陽石油株式会社 四国事業所
総務部 総務グループ長
渡部 裕一 様

事業所と東京本社の間でリアルタイムな情報共有が実現。事業所内の情報共有もスムーズに。

当社の課題をリコーさんにお話ししたところ、RICOH UCSとIWBをセットで提案いただきました。まず、他社商品とは異なり、映像配信システムがクラウド型であることにメリットを感じました。誰も予期できない自然災害を思うと、専用回線が不要で、インターネット回線があれば場所を問わずどこからでも映像が確認できるのは、災害時のツールとして非常に良い仕様だと思います。IWBについても、時系列に集約された情報や、発災現場を示す図面を、拠点間で共有できるという機能により、各事業所（四国・山口）と東京の間の情報共有のスピードアップと正確性の向上を期待しました。2017年9月に実施した総合防災訓練で、システムを使った訓練を実施しましたが、期待通りの効果を確認できました。

それ以上に素晴らしかったのは、IWB間だけではなく、社内のネットワークに繋がった端末さえあれば、WEBブラウザを使って、どこからでも閲覧できる点です。これまで無線に頼っていた事業所内の情報共有が、大幅に改善されました。四国事業所は敷地が非常に広く、災害時、多忙を極める防災本部に、部門側から無線連絡すれば、混乱の原因と成りかねません。これまでは、無線を傍受しながら連絡や本部の指示を待っていましたが、IWB導入により、手元の端末から、最新情報を自ら確認できるようになったので、無線による指示を待つことなく、いち早い準備や対応、自主的な防災活動を行えるようになりました。また、RICOH UCS・IWB共に、発災時だけでなく日常の業務で使えるツールなのも良いですね。



総合防災訓練の東京本社の様子四国事業所からの映像の配信と、四国でまとめたホワイトボードの書込を本社でもリアルタイムに共有。



現場からの映像をUCSをつかってリアルタイムに配信。本部からも状況が把握できるように。



3大選定ポイント



- ① 現場からの映像配信システムは、クラウド型のビデオ会議システムを活用して実現できた。また、必要に応じてIDを柔軟に追加できる（RICOH UCS）。
- ② RICOH IWBの遠隔ホワイトボード共有機能で、事業所と東京間だけでなく、WEBブラウザから、事業所内のメンバーもホワイトボードが閲覧できる（IWB）。
- ③ 操作が簡単で、発災時だけでなく普段の業務でも活用できるツール。

太陽石油株式会社様のソリューション事例を、さらに詳しく、Webで。

http://www.ricoh.co.jp/case/1803_taiyooil/

※本ちらし記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。



本レポートは、リコーが提供する新しいクラウドサービスである Clickable Paper サービスに対応しています。
スマートフォン/タブレット端末用アプリケーション「TAMAGO Clicker」(無料)をダウンロードし、ページを撮影(クリック)すると、関連情報のあるインターネット上のサイトがご覧いただけます。
www.ricoh.co.jp/software/other/clickablepaper/

RICOH リコージャパン株式会社
imagine. change.

お問い合わせ・ご用命は

<http://www.ricoh.co.jp>